

WEEKLY

一宮

題字 PG 安野謙次

Rotary



The Rotary Club of Ichinomiya

●例会日 木曜日 ●例会場 一宮商工会議所 ●承認日 昭和24年12月31日
●事務局 一宮市栄4-6-8 一宮商工会議所ビル5階 電話(0586)24・1931 ・491-0858



未来を描こう、笑顔でつなごう



重文「陵王」面 真清田神社蔵

URL:<http://rc138.org> E-Mail:rc138@lily.ocn.ne.jp

2022年7月21日 第3513回例会

会 長	関 戸 徹	会長エレクト	足 立 誠
副 会 長	青 山 佳 裕	副 幹 事	富 田 隆 裕
幹 事	吉 田 真 人	会報委員長	熊 田 慎 二

プログラム

クラブアッセンブリー
前年度事業・決算報告
今年度事業・予算報告



新会員 堀内寿志君入会式

ロータリーソング「それでこそロータリー」
第3512回例会の記録
2022年7月14日(木)



例会前に故安倍晋三元首相に黙祷を捧げました



青少年交換派遣候補生 新田みりあさん・船戸優君壮行会

委員会報告 ニコボックス

安藤滋朗

- ☆ 藤野直子君(名古屋名東RC)
本日、卓話に伺いました。宜しく願い申し上げます。
- ☆ 内藤幹夫君 佐々木久直君
藤野直子様を卓話にお呼びした喜びで。藤野様卓話よろしくお祈りします。
- ☆ 堀内寿志君
この度、歴史と伝統ある一宮ロータリークラブに入会させていただくことになり、大変光栄に思っています。微力ではありますが、これからの活動の中で地域に奉仕、貢献していきたいと思っています。お願い申し上げます。
- ☆ 大森輝英君
中部電力パワーグリッド(株)の堀内一宮営業所長をご推薦させていただきました。皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。
- ☆ 足立 誠君
青少年交換留学生として、新田みりあさん・船戸優君の二人が推薦をして頂き感謝申し上げます。出発前の挨拶の機会を二人に与えてくださり、重ねて御礼申し上げます。
- ☆ 山口雅志君
青少年交換留学生の新田みりあさん・船戸優君をお迎えできた喜びで。1年間頑張ってください。
- ☆ 関戸 徹君
今日、長男のところに2人目の孫が生まれました。女の子でした。写真を見た限りでは、元気そうで安心しました。
- ☆ 関戸 徹君 吉田真人君
本日卓話を頂く名古屋名東ロータリークラブの地区補助金委員長の藤野直子君をお迎えする喜びで。

本日新入会員として堀内寿志君をお迎えする喜びで。また、青少年交換派遣候補生の新田みりあさんと船戸優さんの壮行会を挙げる喜びで。

ロータリーの友7月号の紹介は紙面の都合で次週掲載いたします

次回の予定

7/28 例会変更 夜間例会
8/ 4 ガバナー補佐訪問
クラブ協議会

出席報告

現在の会員数 109名
本日の出席数 66名
ビジター出席数 1名
前々回の出席率 100%

***** プログラム *****

卓話

藤野直子君(名古屋名東RC)

(地区補助金委員会委員長)

テーマ「愛知子ども応援プロジェクトについて
～子どもの貧困・教育格差をなくすために～」



皆様、こんにちは。名古屋名東RC所属藤野直子です。2017年より「RCC」を結成し、子ども食堂や学習支援運営者さんと共に奉仕活動を行っております。現在はRCC提唱を外し、「一般社団法人愛知子ども応援プロジェクト」として活動しております。本日は、子どもの貧困の現状や子ども食堂の活動について、卓話をさせていただきます。

「貧困の定義」は二つあります。①「絶対的貧困」:最低限の生存を維持することが困難な状態で、国連の定義により一日1.9\$未満で暮らしている状態。②「相対的貧困」:先進国で用いられる定義で、文化水準・生活水準と比較して困窮した状態。

相対的貧困は「貧困ライン」から「相対的貧困率」「子どもの貧困率」を割り出します。2019年の厚生労働省の国民生活基礎調査による貧困ラインは127万円、子どもの貧困率は13.5%でした。実に、7人に一人のお子さんが、貧困ライン以下のご家庭で生活をしているのです。そして、ひとり親家庭の子どもの貧困率は、48.3%にも上ります。

次に、「貧困の連鎖」についてです。不十分な衣食住・栄養不足・虐待やネグレクトなどにより、精神的に不安定になり、絶望感や自己否定の感情に支配されます。ご家庭で、学習するという習慣がないので、低学力になりがちです。学校でもいじめの対象になりやすく、不登校や中退も多く、女の子は10代での妊娠・出産、シングルマザーになる、そして、新しい彼が子どもへの虐待・・・といったパターンに陥ります。安定した仕事に就くことも難しくなります。これが「負の連鎖・貧困の連鎖」です。生活は落ち着かず、居場所がないまま社会に出てしまうのです。そしてこの連鎖は、世代間でも起こります。時々“親の責任論”を問われますが、親御さんも負の連鎖の中で育った方が多いのです。そして負の連鎖からお子さんが自力で抜け出すことは、なかなか容易ではありません。さらに、「経験や関係性の貧困」にも陥りやすく、将来に大きな影響を及ぼします。部活を続けるには、ユニフォーム代・練習試合のための交通費昼食代などお金がかかります。親に遠慮し

て、部活を辞めるお子さんもいます。経済的な理由で、交友関係が保てなく、様々な機会を失ったお子さんは、「あきらめ」の感情に支配されてしまい、他人との信頼関係を築くことが困難になります。諦めの感情に支配されると、脳が委縮し社会の中で生きていくために必要な非認知能力の形成がなされにくいという研究結果があります。貧困は、見ようとしなければ見えません。黄色信号のお子さんが、私たちのすぐ近くにいることを認識して頂きたいのです。

貧困ライン以下のお子さんの食生活の実態調査によると、圧倒的にタンパク質が足りません。炭水化物で空腹を満たすので、栄養が偏ります。

さあ、居ても立っても居られなくなり、日本中に「子ども食堂」が開設されました。

最初の子供食堂は、東京大田区の八百屋さんが、「夏休みにバナナ一本が一日の食事」というお子さんの話を聞いて、事を作ったことから始まり、現在は全国に6000ヶ所にもなりました。

子ども食堂は、無料や安価で食事を提供、お子さんに限らず、親子連れや一人住まいのお年寄りもいらしゃいます。「子ども食堂が、唯一の外出」という親子も多いです。学校でも孤立し、家庭もぐちゃぐちゃ、穏やかに落ち着ける場所がないお子さんたちの居場所となっている子ども食堂は、地域の交流拠点として成り立っています。そして学習支援にとりくんでいる運営者さんも多いです。2020年の新型コロナウイルス感染拡大により、子ども食堂の活動は大きく変化致しました。厚労省からの通達により開催が出来なくなったのです。しかし、運営者たちは、こんな時だからこそ子供たちやそのご家族との繋がりを続けなければと、食料品のお渡しやお弁当配布へと、形態を替えて活動を続けています。

ロータリークラブとして、運営者さん方の、やる気がなくなるような支援が必要です。フードバンクも、エリアごとにあるのが理想的です。また、様々な職業を知る機会が乏しいお子さん達に将来の夢を描けるキャリアデザインが出来ればと思っております。

大きな目標は、「一小学校区に一か所の子ども食堂開設」と「子ども基金の設立」です。高校に合格したが、制服代などが足りないなど、あと少しのお金があったら、人生が変わるという岐路が、困難家庭ではあるのです。同じスタートラインに立たせてあげるための基金を作りたいです。

一つの奉仕活動で一人の人生が好転するかもしれません。緒方貞子さんのお言葉「熱い心と冷たい頭を持って」を胸に、これからも、ひとりでも多くのお子さんを、負の連鎖から引き上げて差し上げるための奉仕活動を続けて参ります。今後とも、宜しくご理解ご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。ご清聴ありがとうございました。